教師の働きかけについて

○児童・生徒一人一人の資質・能力を育成し、自己肯定感や挑戦意欲の向上を図るために、教師の働きかけの在り方について、事前に具体的な打ち合わせをして共通理解を図る。 ○これらの内容は生活指導員にも説明し、同じ方向性で児童・生徒に対する支援や指導ができるようにする。　　「武蔵野市長期宿泊体験活動検討委員会報告書」より

【実施後の引率教員によるアンケートからの抜粋】

（プレセカンド）

○事前学習において児童に探究する課題を設定させたことにより、児童が興味をもって体験活動に参加できた。

○事前に、児童と生活指導員による顔合わせの会を実施したことにより、実施前に人間関係を作ることができ、当日の活動に児童が安心して臨むことができた。

○４年生では次年度のセカンドスクールに向けて、生活面の向上と友だちとの協力に重点を置いて指導を行ったことで、整理整頓、体調管理など自分で考えながら生活することにつながり、帰校後も、学校生活に生かそうとする姿があった。

○配布するしおりの内容は最低限のみの情報としたことで、必要に応じてメモを取ったり子どもたちが話し合ったりする主体的な活動につながった。

○校内の会議や指導員の打ち合わせにおいて、プレセカンドの合言葉を確認することで、共通意識をもって指導することができた。

●体力に応じたプログラム設定の必要性、現地ガイドとの打ち合わせ不足による活動の質の低下への対応、時間的なゆとりのもてる計画の立案が求められる。

●前年度に計画したことによる引継ぎ不足や変更の難しさから、反省をいかしきれないことがある。

●活動が、学習内容や発達段階と合っていないことがあった。

（小学校セカンド）

○全体を通して、時間に余裕をもった行程を設定したことで、児童が課題をじっくり深めたり話し合ったりする場面を多く設定することができた。そのために、いくつかのプログラムを削減した。ゆとりをもった行動となり、宿の方との深い関係性を築くことができた。

○テーマが「感謝」であった。当たり前のように宿の方がしてくれることが当たり前でないこと、教員の手を離れ児童中心に宿で生活するとき友達同士の助け合いがあってはじめて生活が成り立つこと、これらのことに児童が気付くことができるように、事前、期

間中、事後に指導をした。

〇課題別学習でコースを増やし、児童の実態に応じた行程を計画することができた。

〇オリエンテーションの時期を早めにすることで、事前学習の機会を多く設けるとともに、社会科の授業を中心に現地の産業との比較ができるよう児童に調べる視点を多くもたせた。

〇民宿別の活動を取り入れることで、それぞれの民宿の特長をいかした学習を展開することができた。

●オリジナリティのある活動を考えるのに、実地踏査だけでは難しいと考えるが、観光協会や宿の方に丸投げしてしまうのには意味がないと考える。

●夜に語らいの会などの時間を設け充実させることで、児童同士や宿の方と普段話さないような話をすることができ、より深いかかわりの機会となった。

（中学校セカンド）

〇キャンプファイヤーを生徒の体験活動の発表の場としたことで、興味関心を高くもち創意工夫のある機会として充実できた。

〇体験を宿ごとにまとめて発表する活動は、それぞれの工夫が表れたこと、学年のつながりが深まったことにつながった。

〇普段、関わらない方々との交流を設定したことは、生徒の考えを広げることにつながった。客観的に物事をとらえ、他者に感謝する言葉や態度が実施後に見られた。

〇事後学習を見通した結果、それらが文化的行事の展示・発表において活用することにつながった。

〇生徒自身が決めたスローガンをよく理解し、達成のために自分たちで呼びかけていた。実施後、自分たちから挨拶する生徒が増え、学習の成果を率先してまとめていた。

●民泊に指導員が参加したことによって、生徒自身が考えを整理・まとめることの支援につながった。課題として、指導員全員がそろっての打ち合わせができなかった。

●効果的な働きかけや安全管理のために、分宿から全体泊とする、各学校間の情報共有のための担当者委員会開催、提出書類や様式の見直しによる簡素化を進める。